

驛鈴がつなぐ松阪市・浜田市 観光文化交流事業

いわみかぐら

# 石見神楽 松阪上演会

クラギ文化ホール

松阪市川井町690番地

0598-23-2111

9月24日(土)

開場13:00

開演13:30



【演目】

武の内 / 三上山 / 大蛇

【出演】石見神楽佐野社中 画像提供：アイ企画

チケット  
発売日 8月8日(月)

全席  
自由

500円

《チケット取扱所》

- クラギ文化ホール管理事務所
- 嬉野ふるさと会館
- 飯南産業文化センター
- チケットぴあ [Pコード:514-095]

※前売券完売の場合、当日券の販売はございません。

※チケット制(有料)となります。

《お問い合わせ》

松阪市 観光交流課 ☎0598-53-4405

【主催】：松阪市

【協力】：浜田市、浜田市・松阪市友好の会、松阪市・浜田市友好の会

浜田市石見神楽社中連絡協議会、(一社)浜田市観光協会、(一社)松阪市観光協会

## 01 驛鈴がつなぐ松阪市と島根県浜田市

第4代松坂城主であった古田重治公が、今から約400年前の1619年に石見国浜田に転封され初代藩主となりました。また、浜田の第12代藩主の松平康定公が、松阪の国学者本居宣長に贈った「驛鈴」は、現在もなお松阪市のシンボルとして市民に親しまれています。このように、松阪市と浜田市は歴史的なご縁を持つことから民間交流が始まり、平成28年4月2日には「驛鈴で結ぶ松阪市・浜田市 観光・文化交流協定」が締結され、両市の絆はより深いものとなりました。

## 02 石見神楽佐野社中の紹介

「伝統とは、形骸を受け継ぐものではなく、精神を受け継ぐものである」、「序・破・急」を社中理念に掲げ、「武の内」等の貴重な古典演目の継承を重んじながら、はやくから創作演目の制作、音響・照明等の舞台効果を取り入れ、石見神楽の近代化に取り組んでいます。現在、約30名の社中員で活動しており、石見神楽独特の勇壮華麗でテンポの速い八調子神楽を継承しています。

## 03 演目紹介

### 【武の内】（たけのうち）

第14代仲哀天皇の後・神功皇后は、身重の身で武内宿禰（たけのうちのすくね）を従え、亡き夫に代わり外征を決意します。住吉の神に御神楽を奏しながら戦勝を請うと「潮干る珠（しおひるたま）、潮満つる珠（しおみつるたま）」の二つの珠を授かります。潮干る珠とは、海の水を干し海底を陸地とする能力を持っている宝玉で、潮満つる珠とは、陸地を海中に変える能力を持っている宝玉であり、神功皇后は二つの宝玉を駆使しながら戦い、外つ国（とづくに）の賊徒どもを降参させます。

### 【三上山】（みかみやま）

俵藤太（藤原秀郷）は、「天慶の乱」に向かう途中、近江の国にさしかかると、大百足（おおむかで）のために里人、旅人らが大変困っていることを知りました。この大百足は三上山を七回り半して、伏した身を琵琶湖に沈め、瀬田の唐橋に頭をもたげるとてつもない怪物ということでした。憤りを感じた藤太らは山中に分け入り、その妖怪らに毒酒を盛られるなど危機に遭遇しながらも、見事に退治し近江の国に平和を取り戻しました。

### 【大 蛇】（おろち）

悪業のため高天原（たかまのはら）を追われた須佐之男命（すきのおのみこと）が出雲の国 斐の川にさしかかると、老夫婦が嘆き悲しんでいました。訳を尋ねると、夫婦には8人の娘がいましたが、巨大な怪物の八岐大蛇（やまたのおろち）が毎年あらわれて、7年に7人の娘をとられ、最後の1人も取られる運命にあるといます。須佐之男命は、大蛇退治を約束し、毒酒を作らせ、これを大蛇が飲んで酔った所を退治します。この時、大蛇の尾から出た剣は天の村雲の剣（のちの草薙の剣）として天照皇大神に献上され、三種の神器の1つとして熱田神宮に祀られています。須佐之男命は助けた娘、奇稻田姫（くしなだひめ）と結婚しました。